

プログラム名

「 城里っ子育成事業 」

1 プログラム設定の目的

人口減少・少子高齢化など社会環境が大きく変化するなか、地域の活力を維持していくためには、地域の担い手となる人材を確保し、その育成に努めていく必要がある。そこで、城里町の子どもたちが、大学等への進学や就職により一旦は地域を離れても、再び地域にお戻り、働き、生活していきたいと思う気持ちや郷土愛を地域資源を活用して育む一助とする。

2 事業の概要

平成30年度、城里「子ども育成会」・「高校生会」とJ2サッカーチーム「水戸ホーリーホック」との交流会をとおして「城里っ子」の健全育成につなげた。また、この事業により、「子ども育成会」と「高校生会」のつながりと個々の団体の結束力を高めることにもつながっていた。

昨年度（令和元年度）も、30年度の取組を引継ぎ実施し、成果をあげることができた（別紙資料参照）。

しかしながら本年度については、新型コロナウイルス感染対策のため子ども育成会（各地区子ども会）・高校生会、水戸ホーリーホックともに動くに動けない状態であったために、活動は休止状態である。また、昨年度まで町民の日には町を挙げて交流会を実施していたが、今年は町民の日のイベント活動も中止になっている状況にある。今後、この状況に変化があれば、高校生会を活用して子ども会の育成を図っていききたいということである。

●連携●

連携・協力団体		役 割
市町村	城里町教育委員会事務局 城里町子ども育成会	本事業の企画運営・推進の主体 交流会・練習会・ゲーム等への 子供会会員の募集と参加
地域連携	城里町高校生会	高校生会からボランティアの募集と 交流会・練習会・ゲーム等への参加
	J2ホーリーホック	交流会への参加 練習会・ホームゲームへの子供会・高校 生会の招待
生涯学習 センター	県南生涯学習センター	講師の紹介、各団体との連絡・調整
大 学	茨城大学	研修会への講師の派遣

3 成果

- (1) 町政の重点としている「子育て」事業の一事業として成果があった。
- (2) 練習会場を当町にもつJ2のクラブチームとの交流を企画し実践することにより、「子ども会」を活性化し「城里っ子」の育成を図ることができた。
- (3) 高校生会として地元高校生を活用することで、世代間の交流と共に、高校生のボランティア活動につながり、リーダー性の醸成にもつながった。
- (4) クラブチーム・選手が小学生に身近な存在となった。また、町民の日のイベント活動へのクラブチームの参加により、町のチームでもあることなど、町民の認識が深まった。
- (5) クラブチームとしてもファン層の拡大・確保、社会貢献につながっている。

4 課題

- (1) コロナ禍の中で、どのような交流活動が図れるか。
- (2) 交流活動を継続できる社会団体をどう発掘するか。